

## 文献紹介

山澤 学著

『日光東照宮の成立 近世日光山の「荘厳」と祭祀・組織』

思文閣出版 2009年3月刊

A5判 418頁 5,700円＋税

本書は新進気鋭の山澤学氏の処女論文集である。まずもってその刊行を心よりお喜び申し上げたい。山澤学さんにはじめてお会いしたのは記憶が定かではないが15年ほど前だったか歴史地理学の調査実習記録を「港町銚子の形成過程と観音信仰」としてまとめられた報告書を頂いたのが最初だったろうか。あれから15年、山澤さんはこれも記憶があやふやだがいずれもその後刊行された「出羽三山信仰の浸透に関する地域的研究」「東照宮造営期日光の商人・職人に関する研究」「東照宮建築の生成と伝播に関する研究」「東叡山成立史の研究」などの報告書や研究書をいただきその精力的な執筆活動がいつまとめられるのかと待ち望んでいたものである。

近年の東照宮研究は長足の展開をみせており本年の1月には山澤さんとほぼ同世代の中野光浩『諸国東照宮の史的研究』（名著刊行会）の上梓もあり、この数年でいっきに東照宮研究が世間の耳目を集めたことと関連しているものであろう。中野氏の研究対象が日光東照宮そのものではなく、東照宮を城下町祭祀として設定した各藩や江戸・大坂の東照宮であり、南関東を中心に民衆が家や地域社会で奉祀する東照宮をまとめられたのに対して、本書は御自身の出身地である東照宮の総本山とされる「日光東照宮」を徹底した現地調査によってまとめられたものであり、中野氏の著作とは好対照でありその点でもまさに時宜を得た刊行といえるであろう。

さて近世日光山は、徳川家康が東照大権現として17世紀に勧請された東照宮が鎮座し、徳川將軍家かつ江戸幕府の崇敬の地となった。本書はその成立過程を、日光東照宮をバックアップした歴代の將軍ないし天皇を頂点とした力学、神格を再構成するために構築された独自の祭祀組織と多くの祭礼の特質、その象徴ともなった権現造建築に示現された建築・空間を規定した同時代社会、さら

にその裾野に展開した日光という「町」の形成、これらの経緯を歴史学・歴史地理学などをベースしながら民俗学的視点にも目配りをしながら「日光東照宮」を「日本の宗教と文化」表象するものとしてその全体を構造的に把握することにより明らかにしたものである。

以下に主要目次を掲げる。

### 序章

#### 1 研究史および本研究の問題視覚

#### 2 本研究の構成

### 第一章 日光東照宮祭祀の存立原理

#### 第一節 東照大権現の鎮座と祭礼の形成

#### 第二節 寛永大造替による將軍座居の成立

#### 第三節 將軍家光期における東照大権現祭祀の位相

#### 第四節 「宗廟」日光東照宮の確立

#### 小括

### 第二章 近世日光山惣山組織と法会の編成

#### 第一節 中世末期の衆徒・一坊

#### 第二節 中世末期日光山の真言僧

#### 第三節 天海による法会と惣山組織の編成

#### 第四節 日光山法会と惣山組織の確立

#### 小括

### 第三章 日光東照宮建築の系譜

#### 第一節 徳川家康壺廟建築の空間構成

#### 第二節 権現造建築の展開

#### 第三節 職と技術の拡散

#### 第四節 徳川將軍家による権現造建築の独占

#### 小括

### 第四章 日光惣町における御役の編成

#### 第一章 職人・商人の日光山来住

#### 第二章 日光山惣山組織下の職人組織と町

#### 第三章 東照社造営後における町の拡大

#### 第四章 日光惣町の御役編成

#### 小括

### 終章

序章は個人的にはある意味では本書の白眉と思う。ここで日光東照宮祭祀を中心とする研究史を整理され、研究史の厚みを逆に自分の問題関心にバックさせる方法を展開していること、それは当り前のことに思うが、とくに「日光東照宮」など

を研究対象にするとき陥りやすいのが一つの学問体系やスタイルに特化しすぎる傾向があることは否めないであろう。とくに「東照宮」研究ではトータルな研究分野よりも思想史や神社史がこれまで多かったのに対して山澤さんは何よりも戦略的に学際的な研究に「日光東照宮」を位置づけることに成功したのはこの研究史整理からも読み取ることができる。

第一章「日光東照宮祭祀の存在原理」では、日光山に樹立された国家神としての日光東照宮の存立を規定する原理を例祭確立の過程の中に解明するために、天皇・朝廷発給文書、東照大権現を皇祖神に比して「宗廟」と号する「東照社縁起」を検討したものである。

第二章「近世日光山惣山組織と法会の編成」では、日光輪王寺門跡を冠し東照宮祭礼を執行する日光山惣山組織編成の特質を明らかにすることを目的とし、家光の目指す「荘厳」の執行者たる惣山組織の諸職の編成と日光山における法会の再編の具体相を、確実な同時代史料と比較的信頼における歴住記を用いて考察している。

第三章「日光山東照宮建築の系譜」では、日光東照宮を演出する祭礼の空間となる建築の固有性を、その背景にある將軍家の「荘厳」の志向と、その創出を担った職人の存在形態を通じて明らかにし、その権現造建築の前史となる北野社、豊国社、後史となる徳川家霊廟建築その他の権現造建築へといたる文化的系譜に位置づけている。

第四章「日光惣町における御役の編成」では、日光山および東照宮の山下に編成された日光惣町が御役と呼ばれる日光東照宮祭礼役を分掌することを、各町の形成過程を検討しながら、とくに「日光山東照宮御造営帳」および同時代の絵図にも注目し検討したものである。

以上の検討により、近世日光山成立の特質は、將軍家光の営為である日光東照宮の「荘厳」にあると結論づけている。そして何よりも本書は「日光東照宮」自体の成立だけでなく、どのような組織によって運営され、宗教都市としての日光という町がいかに関形成されて運営されていたのかという点まで言及した本格書であり、今後「日光東照宮」を研究するときの指標となるであろう。

(西海 賢二)